

教 育 委 員 会

点検・評価報告書 (案)

《平成 28 年度対象》

平成 29 年 8 月
横須賀市教育委員会

目 次

◆ はじめに	1
(1) 点検・評価の目的	1
(2) 点検・評価の方法	2
(3) 留意事項	2
参考【市立学校数】	2
◆ 重点課題に対応する主な事業	4
○ 重点課題（平成 26 年度～平成 29 年度）	6
○ 点検・評価報告書の見方（重点課題に対応する主な事業）	8
1 重点課題に対応する主な事業	10
◆ 目標・施策に基づく関連事業	54
○ 点検・評価報告書の見方（関連事業）	56
2－1 目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）	58
2－2 目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）	80
2－3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）	104
◆ 目標指標	116
○ 点検・評価報告書の見方（目標指標）	118
3－1 目標指標（学校教育編）	120
3－2 目標指標（社会教育編）	126
3－3 目標指標（スポーツ編）	130
◆ 用語解説	136
巻末 横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見	

◆はじめに

(1) 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、すべての教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表することとされています。

横須賀市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的に、「横須賀市教育振興基本計画」で示した施策体系に基づいて、「教育委員会点検・評価報告書（平成28年度対象）」を作成いたしました。

報告書において、前年度の施策・事業の実績から効果や課題を検証し、課題に対する今後の改善策や学識経験者の意見等に対する今後の方向性を示し、次年度以降の施策・事業の展開に活かしています。

この報告書をご覧いただき、横須賀市教育委員会の取り組みにご意見をいただくことで、今後の教育行政に活かしてまいります。また、今後も計画に掲げた目標の達成に向けて、着実に施策・事業を展開してまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 点検・評価の方法

「横須賀市教育振興基本計画」における重点課題に対応する主な事業を中心に、「学校教育編」、「社会教育編」、「スポーツ編」と3つに区分された各編の関連事業、目標指標の計画に対する実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価に当たっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【ご意見をいただいた学識経験者の方】 ※五十音順

小林 宏己 先生 （早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

蛭田 道春 先生 （大正大学 名誉教授）

山本 巧 先生 （防衛大学校 総合教育学群体育学教育室 教授）

(3) 留意事項

- * この点検・評価は、教育委員会が管理・執行している事務が対象になっています。
- * この点検・評価に対するご意見等がございましたら、巻末に添付しております「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」により、お寄せください。

「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」は、以下のホームページからも入手できます。

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8110/tenken.html>

参考【市立学校数】

学校種別	26 年度	27 年度	28 年度	備考
幼稚園	2	2	2	
小学校	46	46	46	
中学校	23	23	23	
高校	1	1	1	全日制・定時制
特別支援学校	2	2	2	ろう学校、養護学校

◆ 重点課題に対応する主な事業

- 重点課題（平成 26 年度～平成 29 年度）
- 点検・評価報告書の見方
（重点課題に対応する主な事業）

1 重点課題に対応する主な事業

重点課題

(平成 26 年度～平成 29 年度)

「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けました。

重点課題1 学校・家庭・地域の連携推進

食事、睡眠、あいさつなどの基本的な生活習慣、家庭学習や読書、運動の習慣、社会のルールを守るといった規範意識^(注1)などを子どもに身に付けさせるには、学校・家庭・地域が共通の認識を持って子どもを育てることが重要です。そのために、学校・家庭・地域の連携をさらに推進することを目指して、学社連携・融合^(注2)や地域スポーツの充実、家庭向けリーフレットの配布など、学校・家庭・地域が、共に子どもの教育に関わる仕組みや場、機会を充実させます。また、家庭や地域の教育力の向上を目指して、学習の機会および各種情報を提供します。

重点課題2 学力・体力の向上

子どもの「学力や体力」に関する課題の解決に向けて、「思考力・判断力・表現力」「学習意欲や持続性」「体力・運動能力」の向上を目指し、各学校の「学力向上プラン」の充実や、子どもの「健康・体力向上」のための対策に取り組めます。また、義務教育9年間においては、学びの系統性・連続性を重視した教育の充実を図ります。

重点課題3 いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決

子どもの心の一面を映し出しているともいえる「いじめや暴力行為の発生率」「不登校^(注3)の出現率」が高いという状況を改善し、未然防止と早期解決を目指して、相談体制の整備を進めるほか、総合的な支援策や関係機関とのさらなる連携を進めます。また、小学校教育と中学校教育の滑らかな接続を図ることにより、子どもの過度な心の負担を減らします。

重点課題4 学校の教育力向上

教員が子どもと向き合う時間が十分に確保できていないことや、経験年数の少ない教員の割合が増えていることによるさまざまな課題に対応し、学校の教育力の向上を目指して、教員が子どもと向き合う環境づくりや人材育成などの支援策を進めます。

重点課題5 社会教育施設による学習支援の推進

子どもの感性を磨き、創造性を培い、個性を伸ばせるような展示や体験的教育プログラムを社会教育施設^(注4)の多様性、専門性を生かして提供します。

重点課題に対応する主な事業

学校教育編、社会教育編、スポーツ編の事業のうち、重点課題に対応する主な事業を示しました。

重点課題 No					事業名	掲載編	頁
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	学校教育編	10
1	2	3	4	5	「輝け！よこすかの子どもたち（市民向け広報紙）」の発行	学校教育編	12
1	2	3	4	5	学校いきいき事業	学校教育編	13
1	2	3	4	5	学校支援ボランティア・コーディネーター導入の検討	社会教育編	15
1	2	3	4	5	家庭教育講演会の開催	社会教育編	17
1	2	3	4	5	総合型地域スポーツクラブ ^(注5) 育成事業	スポーツ編	19
1	2	3	4	5	家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立	学校教育編	21
1	2	3	4	5	児童生徒健康・体力向上推進事業	スポーツ編	23
1	2	3	4	5	学校評価推進事業	学校教育編	25
1	2	3	4	5	学力向上事業	学校教育編	27
1	2	3	4	5	小中一貫教育 ^(注6) 推進事業	学校教育編	30
1	2	3	4	5	支援教育 ^(注7) 推進事業	学校教育編	32
1	2	3	4	5	いじめ・不登校 ^(注3) 対策事業	学校教育編	34
1	2	3	4	5	人材育成推進支援	学校教育編	42
1	2	3	4	5	子どもと向き合う環境づくりの推進	学校教育編	44
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	社会教育編	46
1	2	3	4	5	子ども向け博物館教育普及活動の推進	社会教育編	48
1	2	3	4	5	美術館展覧会の充実	社会教育編	50
1	2	3	4	5	美術館教育普及活動の推進	社会教育編	52

※網掛けの番号は、事業が対応する重点課題の番号を示します。

○点検・評価報告書の見方(重点課題に対応する主な事業)

1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画の各事業のうち重点課題に対応する主な事業で、19事業あります。

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

事業名を記載しています。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

1. 基礎情報

事業ごとに、対応する重点課題、掲載編、関連目標、関連施策、事業を担当する課を明記し、基礎情報としました。

2. 事業の概要

事業の概要について記載しています。

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1):教育活動の充実	
担当課	教育指導課	

3. 行動計画

具体的な行動と、平成28年度計画に対しての平成28年度の実績を記入しています。(計画と実績が異なる場合は、下記の枠にその理由を記載しています。)

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	配置	配置	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	検討	検討	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	開催	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—

(計画と実績が異なる場合の理由)

本事業について、平成28年度 of 具体的な取り組みとその効果を記載しています。

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容】

- 学校司書が市内小学校全校(46校)に2週で3日勤務した。
- 学校司書連絡会などで蔵書データベース化に取り組んでいる学校の様子を情報交換にて状況を把握し、学校から要望があった際に情報を提供できるようにした。また、市の現状に合うシステムについて情報を収集した。
- 司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、7月に関西大学 非常勤講師塩谷京子氏を講師に「学校図書館を活用して身につけさせたい力」という演題で行った。
- 市立図書館の資料活用については、教科外総会と学校図書館担当者に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。

○ボランティアの養成については市PTA協議会の学校図書館活性化委員会の研修会において「学校司書がいる学校図書館」という演題で講演を行った。学校司書は勤務校でボランティアとともに作業を行う中で養成に関わった。

【効果】

- 横須賀市立中央図書館の「児童・生徒の読書実態調査」において小中学校共に平均読書冊数、本を読むのが好きとする割合が増加した。
- 小学校においては授業以外で学校図書館をよく利用すると回答した児童の割合が11.2%増加した。
- ボランティアの研修会で学校司書の業務の説明を行い、学校、学校司書、ボランティアの共通理解を図ることができた。

5. 課題

本事業についての課題を記載しています。

- 学校司書の研修体制を整え、より専門的な視点で学校図書館運営に関わることができるようにするとともに、学校図書館支援センターのような組織や学校図書館アドバイザー等の人的配置の必要性も感じている。
- 蔵書情報データベース化に向けては、中学校は図書館にパソコンが入っていないため進めることが不可能である。また、小学校の図書館にはパソコンが入っているが、OS環境が整っていないため、データベース化が進みにくい。
- 中学校への手立てを検討する必要がある。

6. 課題に対する今後の改善策

課題に対する今後の改善策を記載しています。

- 学校司書研修会、市立図書館司書を講師とした実技研修、ボランティア養成講座への参加、国立国会図書館の見学、市外への希望研修を組み入れ、学校司書連絡会とあわせて学校司書の専門性の向上を図る。
- 学校司書派遣校の巡回を行う中で蔵書情報データベース化を図った学校の効果的な運用やシステム導入の効果について聞き取りを行う。
- 学校司書配置、蔵書情報データベース化、中学校への手立てを中心に本事業の今後の方向性についてより具体的に近づいたものにしていく。

外部の学識経験者の方から本事業1～5について
いただいたご意見等を掲載しています。

※学識経験者の意見等

○教師が「教える授業」から、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する高度な授業づくり、学びの探究化が求められる時代となっている。そうした中で、市立図書館と情報共有化の進んだ各学校図書館が市内すべての学校に整備されることは、高度な授業づくりを支える重要な条件整備の一つとなる。児童生徒が学校図書館を通じて積極的に市立図書館を利用する機会を増やすことにより、子どもたちの学びの内容と方法が共に質的な高度化を遂げる方向に導くことができるからである。第一に、公的機関としての図書館を通じて、より確かな信頼性の高い情報を活用することができる。たとえ結果的にであったとしても、授業展開との関連から、子どもたちがそれぞれに自宅パソコンや手元のスマートフォンから情報アクセスすることを放任することは、学びの公平性や信頼性の上からも問題となる。第二に、多面的多角的な情報・資料を通じて、多様で豊かな他者の見方・考え方にふれて、自らの考えを深めることができる。児童生徒が共通して手元に置く教科書あるいは資料集ばかりに頼るのでなく、同時に限られた予算の中では決して十分とはいえない学校図書館の書架に置かれた図書・資料に限定されることなく、ICTの積極的な活用を図りながらよりオープンに各種情報ソースへとアクセスすることができる。

○国際化・情報化がさらに進んでいく今後の社会にあって、子どもたちには、何のために学ぶのか、学んだことが自分の未来にどう関わるのかということに対する自律的な思考・判断がますます問われていくことになる。確かに豊かな情報アクセスの場を保障することなしに、そうした思考・判断力の育成はきわめて困難となる。そうした意味で特に中学校における情報アクセスに関する環境整備は喫緊の課題である。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の
方向性を記載しています。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- これからの時代に求められる力を育むこと、学びの公平性に鑑み、学校図書館と市立図書館の連携についてこれまで以上に中央図書館と情報交換を行い、情報システムとその共有化について検討していく。
- 学習指導要領の改訂の趣旨や学校図書館ガイドライン等を根拠とし、中学校の学校図書館における人と物、環境の整備を図っていく。

※備考(補足説明・用語解説など)

補足説明や用語解説等があれば、記載しています。

1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1: 学校・家庭・地域の連携推進
掲載編	学校教育編
関連目標	目標1: 子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(1): 教育活動の充実
担当課	教育指導課

2. 事業の概要

児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	配置	配置	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	検討	検討	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	開催	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容】

○学校司書が市内小学校全校(46校)に2週で3日勤務した。
 ○学校司書連絡会などで蔵書データベース化に取り組んでいる学校の様子を情報交換にて状況を把握し、学校から要望があった際に情報を提供できるようにした。また、市の現状に合うシステムについて情報を収集した。
 ○司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、7月に関西大学非常勤講師塩谷京子氏を講師に「学校図書館を活用して身につけさせたい力」という演題で行った。
 ○市立図書館の資料活用については、教科外総会と学校図書館担当者会に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。
 ○ボランティアの養成については市PTA協議会の学校図書館活性化委員会の研修会において「学校司書がいる学校図書館」という演題で講演を行った。学校司書は勤務校でボランティアとともに作業を行う中で養成に関わった。

【効果】

○横須賀市立中央図書館の「児童生徒の読書実態調査」において小中学校共に平均読書冊数、本を読むのが好きとする割合が増加した。
 ○小学校においては授業以外で学校図書館をよく利用すると回答した児童の割合が11.2%増加した。
 ○ボランティアの研修会で学校司書の業務の説明を行い、学校、学校司書、ボランティアの共通理解を図ることができた。